

クウェー川鉄橋

Bridges of the World

タイ・カンチャナブリ



タイ・2003年発行

クウェー川鉄橋は、タイ西部の町、カンチャナブリの郊外を流れるクウェー・ヤイ川（大クウェー川）に架かる鉄道橋です。第二次大戦中に日本軍によって架けられ、当時の川の名前からメクロン永久橋と呼ばれました。その後、映画「戦場にかける橋」によって「クワイ川」が有名になったことから川の名前も変えられ、「クウェー川鉄橋」の名前が定着することになりました。

この鉄橋はタイとビルマ（ミャンマー）を結ぶ鉄道（当時は泰緬鉄道と呼ばれました）の一環となるものでした。1942年に着工、2年足らずで完成させるという常識外れの計画が立てられ、突貫工事が行われました。占領地から多くの労働者を集める一方、イギリスなどの連合軍の捕虜が6万人余りも駆り出されました。熱帯雨林の山岳地帯での過酷な工事では、伝染病や栄養失調によって4万人もの死者が出たとされています。そのため欧米ではこの鉄道は「死の鉄道」と呼ばれています。

1943年10月に全線が開通しましたが、簡易な構造の間も多く、列車はたびたび脱線したと伝えられています。

メクロン川（大クウェー川）への架橋は、木橋と鉄橋の2本が同時に進められ、緊急輸送用の木橋は1943年2月に完成、鉄橋の方は9月に完成しました。鉄橋の川を渡る部分には支間20.8mの弓形トラスが11連用いられましたが、それらはジャワ鉄道から運ばれたようです。橋脚基礎は鉄筋コンクリート製井筒が水面下7～8mまで下げられ、その上に橋脚が建てられました。

その後、この橋への空爆が1944年12月から始まり、翌年4月と6月の攻撃で中央部に近い3径間が破壊され、通行不能になりました。

戦後、日本の賠償金を使って、破壊された3径間部を取り除き、新たに2径間の鋼製平行弦トラスが架けられました。このトラスに付けられている橋歴板には、支間は32.2m、仏滅紀元2491年、すなわち西暦1948年に日本の横河橋梁が製作したことが書かれています。

残った部分は修理して用いられ、また西側部分も1951年に日本で製作された長さ15m強の鋼桁6連に架け替えられ、橋長330m強の現在の橋が完成しました。



撮影：松村 博